

## ボールド（コロラド）におけるオゾンゾンデ国際比較観測

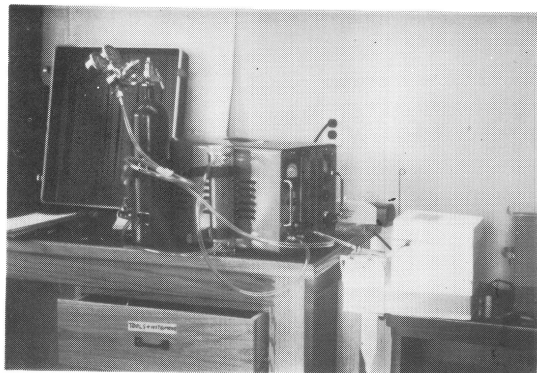
1984年1月末から約1ヶ月、IQSYの計画の一つとして、オゾンゾンデの国際比較観測がI.O.C.(IUGG)の主催で行なわれ、気象庁からは光学的オゾンゾンデ及び化学的オゾンゾンデ各10台を持参して研究所の小林寿太郎博士を団長として3名が参加した。



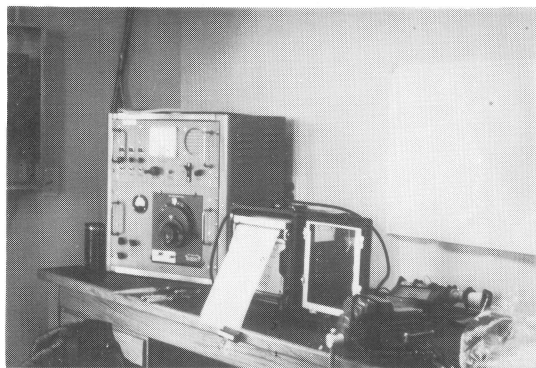
日本の光学的オゾンゾンデの地上試験を行なう  
小林・村松両氏



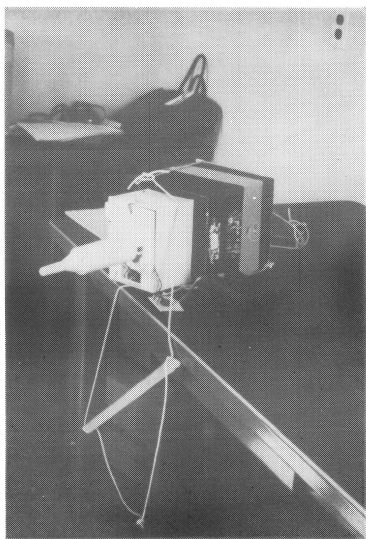
1680メガ受信機アンテナ，連結した2種のオゾンゾンデは共に1680メガ帯(10 M.C.程度の差)のため，2台使用，手でゾンデを追跡する。



Regener 教授のケミルミネッセンス式オゾンゾンデ(右端)の受感部にオゾン発生器からオゾンを通して洗浄している所



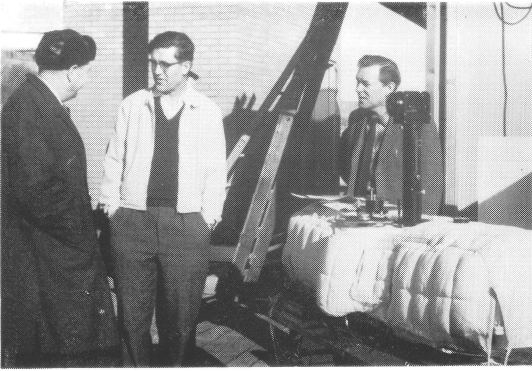
1680メガ受信機と記録機，測風はしないが，小型にできる



西独の Paetzold 教授による光学的オゾンゾンデ



日本の光学的オゾンゾンデの飛揚前の検定を行なう関口氏



Dobson の分光器を前に談笑する NCAR の Dr. Dutsch (中央) (I.O.C. 幹事).



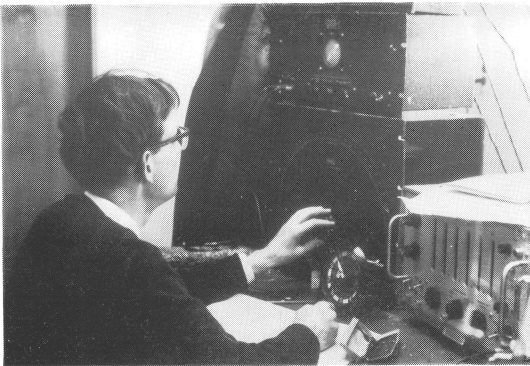
イギリスの Brewer 型オゾンゾンデの飛揚直前の調整



ネオプレン大型気球 (約 8 kg)



防寒具に身を固めて早朝反転観測を行なう Dr. Dutsch



イギリスのオゾンゾンデの受信風景 (20メガ帯). 周波数変化方式で、ブラウン管上に波型を書かせて、同調をとる (本国では自動記録とのこと).



飛揚前のアメリカ MAST 社製 Brewer 型オゾンゾンデ